

ふる里自慢

滋賀県支部

滋賀県支部には日本一大きな琵琶湖があり滋賀県民だけでなく京都・大阪の方々の水がめにもなっている貴重な日本の宝です。

その湖畔に大河ドラマ「麒麟がくる」で放映中の明智光秀の居城「坂本城」がありました。現在は城址ですが、密かなファンが見物に訪れています。

秀の娘婿で「明智左馬之助」という重臣が、秀吉軍の攻撃を避け帰城するたぬ馬に乗ったまま琵琶湖を渡ったという話です。家族や家臣を助けるための懸命な作戦で、今も湖畔には「明智左馬之助湖水渡」という石碑がひっそり立っており、隠れた名所になっています。

ところで話しは変わりますが、その大津市に当支部の顧問である田中豊治氏(八十六歳)が開設された「ふれあいサロン」があり、支部活動の拠点にもなっています。

は二〇一七年十二月に開設され、その目的は、自らの認知症予防と人との出会いの場を作ることのようです。今では、六十歳から九十歳代の方々が日没までカラオケやリズム体操など様々な活動をし、交流の場になっています。そして壁際には参加者が趣味で作った陶芸品や紙細工など珍しい物も並んでいます。これを見たさに来る人もおり、美しい作品を手にして会話も弾んでいます。また、冬にはサロンの入口に石焼芋の器具が置かれ中にはおいしい「安納芋」が並びます。その匂いに呼

1面からのつづき

青森支部

新型コロナの感染流行で自粛中、大雨が続き大きな災害となり、被害に遭われた方々のご冥福をお祈りするばかりです。

心身ともに休まる事のない日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

楽しみしてありましたブロック大会も、その他の行事も延期となったこの時期、当支部では会員一同、頑張つてマスクを手作りし、施設等に寄付させて頂いています。

コロナの

終息待ちわびて

一針一針幸あれと

願い祈る愛マスク

ねぶた祭りも中止となり、ねぶた絵師の方々かねぶた気分を皆さんに届けたいと、心を込めて

終わりになりましたが、皆様のご健康を、ご祈念申し上げます。

書いた絵で暑中お見舞いとさせていただきます。

いつもお世話になって

おります。今後とも末永く宜しくお願いいたします。



び寄せられたかのように女子高生や仕事帰りの〇し並びます。

田中さんはこの人たちにも必ず声をかけ、相談にも乗っています。サロンの開設費、改善費のほか調度品やカラオケ装置の設置費用など全て自己

負担です。それも人との出会いの大切さ他人を思いやる心の大切さをこのサロンから広めようと思

八月号のふるさと自慢で四国中央支部の文中で一段目の九行目の十四年前は、正しくは、十四年間です。また、三段目の三行目の地域菩薩は正しくは、地藏菩薩です。ご迷惑をおかけしました事を深くお詫びを申し上げます。



新会員名簿(敬称略)

- (網走支部) 網中法子、多田吾郎、成澤吉治、平瀬幸四郎、星屋好春、山本広廣(釧根支部) 高下節男、白糠町女性ボランティアクラブ(八戸支部) 鈴木國男(岩手県支部) 新沼文忠(岩手県宮古支部) 生駒利治、白濱和江、菅野充(宮城県支部) 大田哲郎、大場邦男、黒澤賢悦、佐々木利子、武田美江子(桐生支部) 青木講一、天川洋、飯塚莊一、石川裕樹、川合宏一
- (小堀剛、新藤信夫、須永博之、田村敏明、中山榮一、松崎靖、松村章、横塚栄三郎(群馬県北毛支部) 新井健二、小淵千枝子、菊田栄子、小池美智子、小島一夫、佐藤雅代、下田彰一、高木菊男、田口常信、田中栄一、津久井幸夫、西尾一也、萩尾潤、萩原美恵子、樋口とみ江、藤川栄、藤沢進、星野修、本多真理子、宮崎恵子、森田敦子、吉澤敏夫(埼玉支部) 太田
- 操(千葉県支部) 宇佐美進、高崎時彦(板橋支部) 石井幸雄(八王子市) 谷合蘭青(小平支部) 竹内誠一郎、比留間洋一(西東京支部) 石井康夫(山梨県甲府支部) 梅原清美、安達賀洋、伊藤佑子、大原博文、山田康子(新潟県) 川上新吉(福井県支部) 山本隆夫(福井県奥越支部) 森洋子(静岡県浜松支部) 磯野貴子、須藤京子、寺沢万千子、村田三枝子(京都府支部) 池村将勝、稲葉悦男、榎本明子、櫻原良、北川裕、熊井猛浩、西田章夫、布

善行川柳

選者 東 逸平

〇皆健康 平穏生活 これ一番
北海道 齊藤 勉
評/押し寄せる新型コロナ禍に「喜一憂している現今は、この一句に救われる思いですね。」

〇コロコロと ゆくへさだめず ゆくコロナ
福島県 佐藤 ケサ
評/良いですね。《ゆくコロナ》より、《来るコロナ》の方が現状ですね。

〇消防手 原爆雲に 消えた叔父

東京都 神鳥谷知己

評/被爆から七十五年を迎えた二〇二〇年八月六日の朝、新型コロナ禍のため、平和記念式典は、参列者を制限しておこなわれ行われませんでした。日頃の火災消化の名手でも、何万倍の火力によって尊い生命を落とした叔父を偲ぶ作者の心情が、読む人の心中に燃えるように伝わります。

〇ハンゲシヨウ 広々と咲き 村おこす

大分県 佐藤 満洋

評/漢字で書くと、《半夏生》。情緒たっぷり《半夏粧》とも言う。開花期は六月から八月、ドクダミ科に属し、刺激臭を出す。花言葉は、《内に秘めた情熱》と《内気》。緑の葉に白い花、いいですね。ハンゲシヨウという花を題材にした作者の着眼点が素晴らしい。

入会のおさそい

一般社団法人日本善行会では、善行の表彰並びに善行精神の普及と実践を通じ、明るく住みよい社会環境づくりに努めております。活動をご支援いただくために、広く会員をおさそい下さい。

会員の種類

- ①普通会員(正会員) 個人 年額 五千円 法人 年額 一万円
- ②特別会員(正会員) 個人 年額 一万円 法人 年額 三万円
- ③賛助会員 個人 年額 千円以上

※明るいニュース年間購読料五百円含む